

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900463		
法人名	社会福祉法人神港園		
事業所名	グループホーム神港園レインボー西宮		
所在地	西宮市上田西町3-28		
自己評価作成日	令和5年5月30日	評価結果市町村受理日	令和5年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和5年6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 入居者と共に暮らすことを実践できるよう努めている。(一緒に行う家事、寄り添う時間、近隣への買い物、散歩など) 子どもたちとの触れ合い(子どもまつり、ハロウィン、クリスマス会、もちつき、消防訓練など) 入居者の希望により、メニューを決め、一緒に手作り食でもてなす誕生日会 施設内にあるトレーニングマシンを利用した運動 毎週行う園芸療法 看取りも含めた医療ニーズへの対応力を強化。(看護師2名配置内1名は常勤) コミュニケーションアプリ(LINEオフィシャルアカウント)を利用したご家族等へのタイムリーな情報共有
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>複合施設内にあり、運営推進会議・研修・訓練・委員会等が施設合同で行われ、記録も良く整理されている。屋上の広い菜園スペースを活用した園芸療法・トレーニングマシンを利用した機能訓練・ライブラリーでの読書等施設機能を活かすとともに、日課として家事やレクリエーションへの参加を支援し、日常生活の中で楽しみや役割を感じながら心身機能の低下を予防できるよう支援している。毎週行う園芸療法に注力し、戸外での園芸療法や制作活動の機会を設け、生活に季節感を取り入れている。時期や時間帯を考慮しながら、近隣の散歩・買い物・花見等の外出支援を再開し、受診・墓参り・一時帰宅等家族との外出も支援している。協力医療機関・事業所看護師・薬局等との医療連携体制を整備し、家族の希望に応じて看取り介護にも対応している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎年の研修で理念と事業目標について確認している。また、課題が生じた時には、職員間で理念や指針に副っているかを判断のよりどころとしている。</p>	<p>施設理念に基づいてグループホームの生活指針を作成し、その中に地域密着型サービスの意義を明示している。年度初めの研修で理念について理解を深めるとともに、理念・指針をスタッフルームに掲示し周知と共有を図っている。理念をもとに事業目標を作成し、年度末に評価を行い、理念の実践につなげている。各職員の目標管理シートに理念に関する項目を設定し、職員個々が理念の実践に向けて取り組む仕組みを構築している。利用者支援等で課題が生じた時は、リーダー会議・フロア会議等で理念に立ち戻って検討し、理念の実践に取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域のお祭りへの協賛。地域の交流サロンとして施設を開放している。また、地域の取り組みにおいて要請があれば参加している。</p>	<p>地域の交流サロンとして施設スペースの開放・トライやるウィークの受け入れ・買い物等地域資源の活用・利用者の近隣への散歩等、可能な方法で地域交流や地域貢献を継続している。コロナ禍終息後には、地域のNPO・自治会主催のイベント等で利用者が参加可能なイベントには参加を予定しており、可能な範囲から地域交流の再開を予定している。また、地域のお祭りの再開も予定されており、協賛を行う予定である。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議の中で個別の相談に応じたり、トライやるウィークの受け入れも積極的に行っており、その中で認知症高齢者のケアについて講義や体験を通じ啓もうしている。</p>		

グループホーム神港園レインボー西宮

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域のニーズを伺い、デイのサービス向上に生かしたり、他事業所の取り組みを参考にしてサービスに取り入れている。</p>	<p>利用者・家族・西宮市権利擁護支援者・地域代表(民生委員)・知見者(他事業所管理者)・施設側職員(施設長・管理者・リーダー)を構成委員としている。2ヶ月に1回、時期や状況等を勘案しながら集合開催または書面開催している。6ヶ月に1回は、通所介護事業所と合同で開催している。会議では、会議資料をもとに、利用者状況・事故ヒヤリハット・研修・活動内容等を報告し、参加者からの意見や情報を収集している。書面開催時には、事前に「情報交換・助言」用紙を構成委員に郵送して意見や情報等を収集し、議事録に内容や回答を反映させ、書面開催でも意見・情報交換ができるよう工夫している。</p>	<p>個人情報に配慮しながら、ホームページや議事録ファイルの設置等により、議事録を公開することが望まれる。また、コロナ禍終息後には、可能な範囲(短時間参加など)で利用者の参加を検討してはどうか。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営基準や職員配置基準で理解や判断に迷う時は、適宜TELにて確認を行っている。</p>	<p>運営推進会議への西宮市権利擁護支援員の参加を通して、市との連携がある。法令・基準理解等で相談や質問があれば、適宜電話で市の窓口にお問い合わせを行い、助言を受け適正な運営につなげている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については、研修の実施により理解を深めている。玄関の施錠については、安全上行わざるを得ないと考えている。出来る限り、本人の要望に添えるよう対応している。</p>	<p>「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。施設合同で産業医・安全衛生管理者・安全衛生委員会委員長等も参加して「虐待防止・身体拘束適正化委員会」を3ヶ月に1回実施し、各部署との情報共有や不適切ケアの防止等課題の検討を行っている。議事録を各フロアの回覧バインダーで回覧し、閲覧印により職員の周知を明確にしている。全員参加を基本とした施設合同の集合研修で、計画に沿って年2回、身体拘束廃止研修を実施し、参加者は研修報告書を提出している。拘束・虐待等重点研修は複数回の実施により、全員が受講できるよう工夫し、研修受講者一覧表で受講状況を確認している。ユニットのドアの開錠には操作を要するが、外出の希望があれば、ベランダや屋上に職員が同行し閉塞感を感じないように支援している。</p>	

グループホーム神港園レインボー西宮

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が年2回の研修受講を徹底。また、対応難しい入居者などは随時ケアカンファレンスを実施し、職員間で課題を共有し対策を検討している。	身体拘束廃止と同様の方法で、虐待防止についても年2回研修を実施し、「虐待防止・身体拘束等適正化委員会」で不適切ケアの防止に取り組んでいる。定期的・随時の個別面談で相談しやすい環境づくりを行い、また、対応が難しい利用者については随時ケアカンファレンスを実施して課題解決に向け検討し、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。安全衛生委員会の設置・ストレスチェックの実施・第三者相談窓口の設置等、働きやすい環境づくりに努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修必要研修として実施。その他外部研修などを利用し、必要な知識を学ぶ機会を設けている。	成年後見制度を利用している利用者があり、金銭管理・同意等で連携し制度利用のための支援を行っている。今後も、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、施設内の相談員が窓口となり支援する仕組みがある。	権利擁護に関する制度について、職員が一定の知識が得られるよう学ぶ機会を設けることが望まれる。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、契約内容、解約についても十分な時間をかけて説明を行っている。内容改定についても事前の案内を配布し説明の機会としている。	入居の問い合わせや希望があれば見学に対応し、パンフレットに沿ってサービス内容や料金等を具体的に説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・同意書・指針等に沿って説明し、文書で同意を得ている。特に、緊急時対応・重度化看取り対応については、指針・意向確認書をもとに説明し、文書で同意や確認を得ている。契約内容の改定時には、事前に変更案内を配布し内容に応じて文書で同意を得ている。	

グループホーム神港園レインボー西宮

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、日々の家族との直接的なやり取りの中で、意見や要望を拾い改善や見直しにつなげている。	家族の来訪時・面会時に、また、ライン電話等で近況報告を行い、家族の意見・要望の把握に努めている。毎月「レインボー西宮新聞」に写真・様子・看護師からの報告等を掲載し、LINE等コミュニケーションアプリを活用して利用者の体調や生活の様子を伝え、家族が意見や要望が出しやすいよう取り組んでいる。把握した家族の意見や要望は、ラインで情報交換・共有し、個別に対応している。また、運営推進会議への家族参加を通じて、施設側職員や外部者に意見・要望等を表せる機会を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の取り組みとして、年に1回、各職員向けに意向調査を行っている。また、人事考課面接を通じ意見を聞く機会としている。	各部署の職責者が参加するリーダー会議（月1回）・2フロア合同でのフロア会議（月1回）・各種委員会（安全衛生・感染防止・行事・身体拘束適正化・虐待防止）を開催している。施設長も参加するフロア会議では、事前に議題を提示し、会議で多くの職員の意見を集約できるよう取り組んでいる。リーダー会議の報告、利用者や業務についての意見・情報交換等を行い、職員の意見・提案を利用者ケア・業務・運営に反映できるよう取り組んでいる。定期的には年2回、必要時・希望時には随時に、施設長・管理者が個人面談の機会を設け、個別に職員の意見を聴く機会を設けている。法人としても、職員アンケートの実施、相談窓口の設置等で、職員の意見の把握に努め、法人や事業所の運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期ごとの人事考課と人事部との協同で職員の状況把握を行い、新年度に労働条件通知書が交付される。常勤職員も個別の事情を加味し働き方を柔軟に対応している。		

グループホーム神港園レインボー西宮

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のニーズに合わせて外部研修を受講させたり、法人主催の研修などにも参加させている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議で知見者として参加してくれている同業者と、現状などについてのやり取りを行い運営のヒントをいただいている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、可能な限り生活歴を把握。情報収集に努めている。初めは職員による声かけ、見守りなど普段以上に寄り添えるよう留意している。またご本人の不穏時などの対応やケアについて、御家族に理解を求め、情報共有を図っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	LINEオフィシャルアカウントに登録いただき、タイムリーな情報提供に努めている。また、面会については可能な限り要望に応えられるよう対応している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がこれまで行ってきた習慣や、趣味などこれまでの生活が継続できるよう、プランに反映させ、実施できるよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できないと決めつけず、できることは何かを見極め、日々の家事や暮らしの中で生じる動作や作業を一緒に行うよう支援している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院などは、無理のない範囲でご家族に依頼することも多い。面会の口実として、足を運んでもらう機会にもなっている。また、良いことだけでなく困っているところなども一方的な情報提供に留まることなく、一緒に考え、取り組んでいただけるようお願いしている。		

グループホーム神港園レインボー西宮

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に確認の上、可能な限り友人や近所の付き合いのあった方など依頼があれば面会等受け入れしている。また、囲碁の相手などの受け入れも行っている。	地域からの入居が多く、家族の来訪・面会を再開し、馴染みの人との関係が継続ができるよう支援している。また、家族の了解を得て、友人・知人・宗教関係者・囲碁等地域のボランティアとの面会を支援している。感染状況を考慮しながら、受診・墓参り・一時帰宅等家族との外出を支援し、事業所としても、時期・時間を勘案しながら、近隣の公園への散歩・スーパーでの買い物等の外出を再開し、馴染みの場所との関係継続を支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア会議や日々の申し送りでケアの統一を図っている。また臨時でケアカンファレンスを開催するなど対応している。決定したケアの方法は必ず記録に残し、周知を図っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所時には、居所変更となる場合責任を持って支援すること、また、退居となった場合は、ご本人に関連のないことでも、相談や助言を行いますとアナウンスしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の聞き取り、や入所後の様子、言動をキャッチし、共有している。フロアにある個別情報シートに随時記録し共有を図っている。また、ケアプラン更新時には、それらを統合し、プランに反映させている。	入居前の聴き取りや情報を基に、利用者個々の思いや暮らし方の希望を把握し、「フェイスシート」の希望欄・生活状況欄等に記録している。フェイスシート更新時には、新しい情報を追記して個別支援に反映できるよう取り組んでいる。居室担当職員の設置により利用者個々の詳細な意見・要望等の把握に努め、日常のコミュニケーション・行動等で把握した内容は、各フロアに設置している「個別情報シート」に随時記録し共有している。把握した思いや暮らし方の希望は、生活支援や介護計画に反映できるよう努めている。把握が困難な場合は、表情や反応から汲み取り、利用者の意向に沿った支援に努めている。	

グループホーム神港園レインボー西宮

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報収集、日々の家族とのやり取りの中から、得た情報をフェイスシートや個別情報シートに落とし、共有しケアのヒントにできるよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態のついて、記録に残すこと。また、個別情報シートを活用し変化に対応できるようにしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時のカンファレンスやフロア会議での話し合いで、サービス内容を決定している。また、事前に御家族の意向を確認し、会議内で共有している。	入居前の情報・「フェイスシート・アセスメントシート」をもとに、初回の介護計画を作成している。具体的な支援方法について、介護計画のサービス内容と連動している「日課計画表」に記載している。サービスの実施状況や生活の様子は「24時間ケアシート」とタブレットのケアカルテに記録している。日課計画表を個人ファイルに綴じ、日課計画表を参照しながら記録することにより、介護計画に沿った記録につなげている。毎月のフロア会議で、利用者個々の状況についての情報共有や検討を行い、変更がなければ、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。見直し時には、「モニタリング総括表」による評価と、「フェイスシート・アセスメントシート」による再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催している。利用者・家族の意見を事前に電話等で聴取し、かかりつけ医・訪問歯科医・訪問リハビリ等関係者の意見も事前に把握し、サービス担当者会議録に記録している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送り、個別情報シートを活用し、各入居者の担当職員が責任を持って、情報収集、更新を行っている。日課表に反映し、ケアを実践できるようにしている。		

グループホーム神港園レインボー西宮

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族からの要望や日々のやり取りの中から得た情報や意向を積極的に実現して行こうと取り組んでいる。担当職員の裁量に任せ柔軟な発想や発案を大切にしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のNPOや自治会、の要望にできる限り応じている。それらが主催するイベントなど、高齢者が参加可能なものには積極的に参加している。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力をお願いしている往診医がいることをお伝えはしているが、これまでのかかりつけ医が継続できることも説明は必ず行うようにしている。内科以外は、近隣であればこれまでのかかりつけを継続している場合が多い。	契約時に、協力医療機関による 内科の訪問診療、希望に応じて訪問歯科・訪問リハビリの体制があることを説明し、利用者・家族の希望に沿った受診を支援している。入居前のかかりつけ医を継続している利用者もある。他科通院による受診は、家族同行を基本とし、状況に応じて事業所が送迎・付き添い等の支援を行っている。概ね毎日、看護師の配置があり、利用者の健康管理・診察時の立ち合い・必要時の処置・夜間のオンコール対応等を行い、医療連携を図っている。訪問診療・通院の記録は、「申し送りノート」の看護師欄・「個別情報シート」・タブレットの「ケアカルテ」に記録し共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師、非常勤看護師の2名体制をとっている。ほぼ毎日看護職員がいるシフトとなっており、リアルタイムに相談可能。デイ・GHと看護師間の協力体制をとりフォローできるように配置している。		

グループホーム神港園レインボー西宮

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が生じた際には、必ず地域連携へ連絡し、状況把握と伝達を心がけている。定期的に挨拶周りを実施したり、FAXで空き状況を知らせたりしている。	日常的に、近隣協力病院の地域医療連携室と関係づくりに努めている。入院時は事業所から「看護サマリー」で、かかりつけ医から「診療情報提供書」で情報提供している。家族・地域医療連携室と、経過や退院に向けての支援について随時電話で情報交換し、早期退院に向け支援している。退院前カンファレンスが実施されれば参加し、退院時には「看護サマリー」の提供を受けて情報収集を行っている。入院中の情報は、「個別情報シート」・「申し送りノート」で共有している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には必ず説明をしている。自施設の看取りの考え方なども丁寧に説明するようにしている。また、毎月の往診で実施しているカンファレンスを利用し、必要時には主治医面談を適宜設定している。	契約時に、事業所の指針を「医療連携体制及び支援の体制」に沿って利用者・家族に説明して同意を得ている。緊急時の対応方法について、「緊急時の対応」「意思確認書」で同意・意向確認を行っている。主治医が重度化・終末期と判断した段階で、主治医が家族に直接状況説明を行い、看取りに向けた意向確認を行っている。希望があれば事業所から「看取りの指針」の説明を行い、「看取りケア依頼書・受諾書」で家族・事業所の合意を確認している。看取り介護に向けた内容で介護計画を作成し、主治医・看護師・薬剤師・家族・職員等で連携し支援に取り組んでいる。	看取り介護に関する研修の実施が望まれる。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師、介護リーダーのオンコール体制を整えている。また、往診医も24時間対応可能。研修やAED訓練を実施している。		

グループホーム神港園レインボー西宮

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP計画を整備。委員会設置予定。毎年2回避難訓練を実施している。	令和4年度は年2回、災害対応訓練を実施している。令和5年2月に地震想定での火災に対する消火訓練・津波に対する垂直避難訓練を、令和4年7月に施設合同で夜間想定での火災に対する総合訓練を利用者も参加して実施している。訓練前に「実施概要」を作成し、参加できなかった職員には回覧バインダーでの回覧により周知を図っている。施設4階に米・水・カセットコンロ等を備蓄し、安全衛生委員会が管理している。BCP(事業継続計画)も作成している。	訓練実施後は、訓練の実施状況や振り返り等の実施記録を作成し、参加できなかった職員にも共有・周知することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で基本的事項を学び、フロア会議、委員会等で日々のケアの振り返りや課題の共有を行っている。	年間研修計画に沿って、プライバシー保護・接遇マナー・認知症ケア等の研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応等について学ぶ機会を設けている。プライバシー保護研修では、アンケート方式も併用しながら「介護におけるプライバシーについて」意識向上を図っている。フロア会議や「虐待防止身体拘束適正化委員会」で日々のケアの振り返りや課題を共有し、人格尊重・プライバシーの確保に取り組んでいる。レインボー西宮新聞での写真の使用については、契約時に「個人情報使用同意書」で同意を得ている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が行えるかどうかに関わらず、日々のケアの中で、本人が発信するサインや言動を見逃さないようにしている。本人の意向を必ず確認し、選択していただく過程を省くことのないよう気を付けている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間、日中の過ごし方など、本人の生活のペースを優先して支援している。		

グループホーム神港園レインボー西宮

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣服、持ち物など本人の希望に応じ、選択している。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、交代制としており、必ず職員が付き添い一緒に行うようにしている。	炊飯・汁物調理は各フロアで行い、委託業者から届けられた食事を温め、盛り付けて提供している。利用者個々の嚥下状態・病態によりフロアで食事形態に対応している。委託業者の献立に、郷土料理や七夕等季節にちなんだ献立の工夫がある。また、各フロアで昼食レクリエーション・おやつレクリエーションを定期的に計画し、食事に変化をもたせ、食事をより楽しめる機会づくりを行っている。可能な利用者には、野菜のカット・盛り付け・下膳・食器拭き等に分担制で参加できるように支援している。園芸療法として屋上の菜園で野菜を育て、収穫して食材やおやつとして活用し、季節感や楽しみを感じられるよう取り組んでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は必ず記録している。冷たい、熱い、紅茶、コーヒーなど好みに合わせて提供している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアを実施。訪問歯科より、指導を受けケアに活かしている。必要な方には訪問歯科に依頼し、定期的に口腔ケアと診察を受けている。		

グループホーム神港園レインボー西宮

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の対応(オムツ、リハビリパンツ等)については、変更が必要か否かは必ず話し合いを行っている。時間を見て、夜間はPTトイレなど利用し、トイレ内の排泄ができる工夫を行う。	「24時間ケアシート」「個別基本情報シート」で、利用者個々の排泄状況・排泄パターンを把握し日中は可能な限りトイレでの排泄ができるよう、自立に向けた支援を行っている。夜間は安眠にも配慮し、ベッド上で排泄用品の交換を行う等、状況に応じて個別に支援している。利用者の排泄支援状況・排泄用品の使用等の検討事項があれば、随時フロア内で検討し、申し送りノート・個別基本情報シートで共有している。支援内容が大きく変更する場合は家族の了承を得て介護計画に反映させ、現状に即した支援につなげている。プライバシー保護研修・職員アンケート等で意識向上に努め、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮した支援を行っている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは個別に対応している。下剤の指示は看護と連携して行っている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は基本的には午前中としているが、体調や気分が午後に回すこともある。季節風呂として月替わりのお風呂を楽しんでもらっている。	「入浴予定表」に沿って、週2回以上、午前の入浴を基本とし、利用者の体調・希望・気分に応じて柔軟に対応している。「24時間ケアシート」「個別基本情報シート」で入浴状況を確認し、入浴機会の確保に努めている。一般浴槽の個浴で、一人ずつ更湯にし、身体状況や体調に応じて、シャワー浴・足浴等に対応している。個々のペースで安全に入浴できるよう支援し、同性介助の希望にも対応している。季節風呂として、月替わりの湯(ゆず湯・しょうぶ湯・桜湯・どくだみ湯等)を企画し、入浴をより楽しめるよう工夫している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の灯り、居室の温度など個別に配慮している。夜間覚醒した際には、温かいお茶を提供し気分転換を図ってもらうなど、本人のペースを大切にできるよう努めている。		

グループホーム神港園レインボー西宮

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の指示については、看護師が主治医の指示の下行っている。注意点については、往診時のカンファレンスなど通じ、現場へ周知している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内にあるライブラリーにお連れし、本を選んでもらう。掃除が好きな入居者には、あえて掃除をお願いする。手作り食の時には、一緒に食材を買いに行くなど、行っている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期受診の際に、外出を兼ねて連れ出していただけるようご家族に依頼したり、気候の良い日には車を出して、お花を見に行くなど行っている。	時期や時間帯を考慮しながら、近隣の公園への散歩・スーパーへの買い物・ドライブ外出・花見等の外出支援を再開している。受診・墓参り・一時帰宅等で、家族との外出も支援している。菜園・花壇・ベンチ等がある広い屋上や各フロアのベランダを活用し、園芸活動・歩行訓練・外気浴等、戸外で活動や気分転換できるよう支援している。また、施設1階にライブラリーやトレーニングマシンのスペースがあり、フロアから出て活動できる環境がある。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方には制限はしていない。自動販売機でジュースが買える程度の所持金としていることが多い。外出時は、要望に応じ準備している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話回線を引き、固定電話を置いている方もある。携帯電話を所持している人もいる。電話をかけたいと要望されるときは、施設の固定電話を使用する時もある。		

グループホーム神港園レインボー西宮

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の入り具合、室温、家具の配置など、危険を回避できることと、落ち着けることを両立させられるよう、日々工夫している。	共有空間はガラス窓が大きくて採光が良く、明るく開放感がある。リビングには、キッチン・ダイニングが併設され、各種ソファも設置されていて利用者が思い思いに居心地よく過ごせる環境が整備されている。利用者の状況に応じ、採光や音への配慮に努めるとともに、温湿度管理・消毒・掃除・換気を適時に行い、清潔で快適な環境整備に取り組んでいる。壁面に共同制作したあじさい等季節の飾り付けを行い、園芸療法で育てた生花を飾る等、季節感を採り入れている。可能な利用者は、食事づくり・洗濯干し・たたみ等の家事や、計算問題・折り紙等のレクリエーションに参加し、共用空間で思い思いに楽しみ、生活リハビリにつなげている。4階の多目的スペースや屋上、1階のライブラリーやトレーニングスペースも、共用空間として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けのソファを活用している。気の合う入居者同士と一緒に腰掛けられるよう誘導したり、食卓テーブルを一緒にしたりと配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で長く家族等が過ごす機会があることを想定し、稼働式の簡易ソファベッドを用意している。また、使いなれた物で、安心できるお部屋作りをおすすめしている。	各居室も明るく、広さがあり、ベッド・洗面台・クローゼット等が設置されている。筆筒・テレビ・テーブル等の家具や、仏壇・家族の写真等が持ち込まれており利用者の使い慣れたものや好みのを活かし、居心地よく過ごせる居室づくりを行っている。クリスマスリース・ドライフラワー・生け花等園芸療法での作品、誕生日に職員がプレゼントした色紙、カレンダーも飾られている。居室担当職員を設置し、掃除・整理整頓等の衛生管理、また、家族と連携しながら衣類・備品の管理等を個別支援している。居室前に表札を掲示し、場所間違いの防止に努めている。	

グループホーム神港園レインボー西宮

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険がない限り、自由にベランダにでたり、ご本人の行動を制限せずに、付き添うよう努めている。		